原 著

COVID-19下で精神科看護の経験知を学校教諭のメンタルケアスキル向上に活かす試み

大島紀人[1)2)†] 青木敏彦[2)] 伊藤和也[2)]

IRYO Vol. 77 No. 2 (73－80) 2023

要旨 【目的】コロナウイルス感染症流行により生徒の精神的不調の問題は学校保健にとってより重要なものとなっている．学校教諭には生徒の精神的不調を早期発見し対処することが期待される．本研究では，アンケート調査により「精神的不調に気づく」ための精神科看護師の経験知をまとめ，これを学校教諭に共有することで，学校教諭が生徒の精神的不調に気づくスキルの向上につなげるのが目的である．【方法】精神科看護師146名を対象に精神的不調に気づく外観についてアンケート調査を行った．得られた回答は，先行研究（アメリカ精神医学会のガイドライン）と比較するとともに，精神医学・精神看護学を専門とする研究者がカテゴリ化してまとめ，これを基に教育資料を作成した．この資料を用いて養護教諭66名を対象に研修を行い，理解度等をたずねるアンケート調査を行った．【結果】精神科看護師が精神的不調に気づく外観について，回答は677のデータとしてコード化され，表情，行動，話し方，整容，疎通，身体所見，精神症状という７つのカテゴリにまとめられた．これらは先行研究とおおむね一致する結果であった．この結果を用いた養護教諭対象の研修に対しては，参加者の高い理解度と満足度が示され，「精神科看護の視点や活動が勉強になった」「(児童・生徒の）いつもと違うことに気づくことが大切と感じた」といった感想が得られた．【考察】本研究では，精神的不調に気づくため観察すべき外観に注目し，精神科看護師のエキスパートコンセンサスを明らかにした．結果を活用した養護教諭対象の研修は，理解度，満足度ともに良好な評価が得られた．精神科看護の経験知を学ぶことは，学校教諭が生徒の精神的不調に気づく力の向上に有用と考えられた．

キーワード　精神的不調に気づく，学校保健，精神科看護，経験知，養護教諭

はじめに

思春期のメンタルヘルスは学校保健の重大な問題であり，養護教諭が把握する精神疾患のある高校生は千人あたり9.7人，発達障害は8.9人と報告されている[1)]．さらに日本全体の自殺者数が2003年をピークに減少傾向にある中，児童・生徒の自殺者数は増加傾向にある[2)]．とくに2020年にはじまった新型コロナウイルス感染症流行は学校閉鎖をもたらし，児童・生徒が友達と会う機会は減少し，孤立しがちで

１）東京大学相談支援研究開発センター，２）国立病院機構花巻病院　†医師
著者連絡先：大島紀人　東京大学相談支援研究開発センター　〒113-0033　東京都文京区本郷７－３－１
e-mail：dkcg7584@g.ecc.u-tokyo.ac.jp
(2022年10月17日受付，2023年４月14日受理)
Utilizing Psychiatric Nursing Experiences during the COVID-19 Pandemic to Improve School Teachers' Mental Care Skills
Norihito Oshima[1)2)], Toshihiko Aoki[2)] and Kazuya Ito[2)], 1) Center for Research on Counseling and Support Services, The University of Tokyo, 2) National Hospital Organization Hanamaki Hospital
(Received Oct. 17, 2022, Accepted Apr. 14, 2023)
Key Words：mental health awareness, school health, psychiatric nurse, empirical knowledge, school nurse teacher